

大分市立春日町小学校 学力向上プラン 1 (8月)

学校教育 目標	夢と希望をもって、心豊かにたくましく生きる児童の育成
育成を目指す 資質・能力	○確かな知識・技能を身に付けようとする児童の育成・・・「主体性・整理・分析力、まとめ・表現力」 ○自ら考え、判断し、協働的に解決しようとする児童の育成・・・「協働性」 ○ともに心身を向上させようと挑戦を続ける児童の育成・・・「まなびを続けようとする態度」

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 全国学力・学習状況調査結果より、平均正答率は、全国・大分県を上回った(国語67p全国比+6.1 大分県比+4.0 算数59p全国比+2.6 大分県比+3.0)。県学力定着状況調査より、平均正答率は、全国平均、大分県平均をともに上回った(国語73.8p+大分県比+4.2 算数67.0p+大分県比1.8 理科66.1p+2.0)。国語においては、説明文の内容の読み取り、算数においては、概数の表し方と図形の間に課題があった。理科においては、問題の読み取りや当てはまる言葉の選択に課題が残った。また、国語・算数ともに、与えられた情報を整理し活用する問題に課題があった。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 ・学習用語を用いて自分の言葉でまとめ、共有し、さらにその表現を高める指導の充実が必要 ・身近な生活をもとに考察したり、資料から疑問や気づきを見出したりして課題を設定し、解決する力が不足している ・お互いに考えを話し合う場が必要 ・学習内容をつなげる授業(既習内容や前時の振り返りを生かす)を進めることが必要 ・語彙力を高めるための指導の工夫が必要
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) ・協働的な学習活動により、伝えることへの意欲は高まり、伝える力の中でも「書く力」は、確実に身に付いてきた。しかし、語彙力不足から、書くことに抵抗のある児童や、様々な課題に対する自分の考えを条件に合わせて書く経験が必要な児童もいる。 ・話し合う場の設定や、ICT機器を活用した協働的な学びを進めていく中で、人との関わりをもてるようになってきている。	
指導 の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 ・自分の考えをもつために、ワークシート・話型・ICT機器などを取り入れ、自分の思いや考えを書いたり、説明したりする場を設けた。(R8・1学期末)授業中に自分の考えをいつももっている児童85%、授業中に友だちと意見を伝え合うことができていた児童88% ・全教職員で授業づくりの方向性を共有するために、個々に応じた指導法や授業改善について協議し、共通理解を図った(探究のプロセス、考えるための技法)。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 ・学力定着を図るため、基礎・基本の徹底に加え、ICT機器を活用した補充学習や保護者と連携した家庭学習の習慣化等、個に応じた指導を継続している。 ・総合的な学習の時間や生活科では、主体的・対話的で深い学びを育むために、単元の探究課題を考え教材研究を行い、学年に適した教材の決定や指導計画を立てている。	

学力に関する達成指標

○単元末テストで80点以上の児童の割合を80%以上、50点未満の児童の割合を5%以下にする。
 ○児童アンケートで「授業中、自分の考えをもつことができている」と回答する児童の割合を85%以上にし、タブレット端末等ICT機器を活用しながら自ら探究する児童を育成する。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 「こどもたちが考え、活動する授業づくり～生徒指導の4つの視点を生かして～」 ・生徒指導の4つの視点を生かした心理的安全性の高い展開での授業実施 ・自分の考えを書き、説明する活動を仕組み「授業で自分の考えをもつことができる」児童の育成(ICT機器の活用) ・教科横断的な学習の推進(生活科・総合的な学習の時間の充実)	
	〈取組内容〉 ・学習活動において、自分の考えを書き、説明する場を仕組む。(考えるための10の技法の活用) ・授業の目的や課題解決に合った話し合いの場を設ける。	〈家庭・地域の取組内容〉 「学習のきまり」をもとに、家庭学習について家庭での声かけをする。
	〈取組指標〉 ・授業において、魅力ある授業を作り「授業は楽しく分かりやすい」指導を行う。 ・児童が自分の考えを書き、説明する活動を仕組む。(探究プロセスにおける整理・分析段階での支援)	〈家庭・地域の取組指標〉 家庭学習の習慣を身に付ける。 学習環境づくりに心がける。 (時間・場所)
	〈検証指標〉 ・「授業中の先生の質問や説明がよく分かる」と回答する児童の割合を90%以上 ・「授業中自分の考えをもつことができている」と回答する児童の割合を85%以上 ・「授業中友だちと意見を伝え合うことができている」と回答する児童の割合を85%以上	〈家庭・地域の検証指標〉 「お子様の家庭学習の状況をよく見ている」と回答する保護者の割合85%以上。
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・こどもが考えを出し合い、自分たちで解決する場の設定 ・デジタルドリルを活用した弱点克服のためのスキル学習 ・読み聞かせなどの読書活動、図書館利用の推進 ・様々な条件に合わせて視写したり書きたりする機会の設定 ・ICT機器、アプリを活用した学習内容の提供 ・家庭学習の充実	